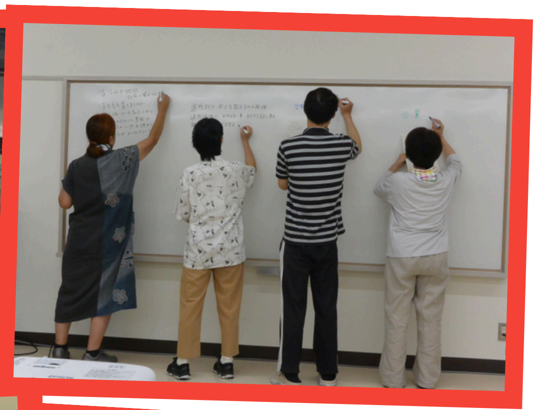
児童養護施設「翼」を支える
「安心・自信・自由」の地域づくり
～CAP推進事業から～

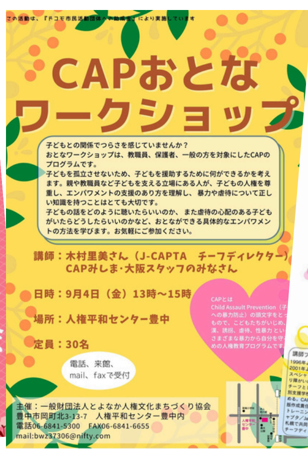
ドコモ市民活動団体助成事業報告書
（2020.9～2024.3）

一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会

もくじ

・はじめに ……………………………… 1
・CAP推進事業 ……………………………… 2
・「翼」のエンパワーを考える市民の円卓会議 ……………… 4
・「翼」でのおやつづくり ……………… 6
・映像制作ワークショップ ……………… 7
・おにぎり大会 ……………………………… 8
・信行寺おてら倶楽部 ……………………………… 9
・木村里美さんを招いて ……………………………… 10
人権を使って暴力に対抗するCAPプログラム　木村里美 ……… 10
学校園の報告　元古佑樹、田中のぞみ、古川さおり、福間香代子 ………… 11、12
・５人がCAPスペシャリストになりました ……………… 12
報告　子どもが沈黙を破るためにおとなができること　山田さほ ……… 12
こんなにも奥が深かったのか！　森山輝子 ……………… 13
・コラム「顔見知り」から「顔見知り」以上のつながりをめざして　土井聡子 …… 2
・コラム　第1回円卓会議に参加して　宇野田陽子 ……………… 4
・コラム　子どもたちからもらう「優しい気持ち」　藤田きみ ……… 6
・コラム　「そこに居る、存在する」ことの意味～円卓会議やお寺などに関わって 長谷川真由 ‥ 7
・コラム　とにかくやってみよう！　寺本美鶴 ……………… 8
・コラム　「翼」の子どもたちと「おてら倶楽部」　岩田はぎ子 ……… 9





はじめに

とよなか人権文化まちづくり協会は、ドコモ市民活動団体助成事業（2020年９月から３年間）を契機にして、自主事業として「児童養護施設『翼』を支える『安心・自信・自由』の地域づくり」を進めてきました。

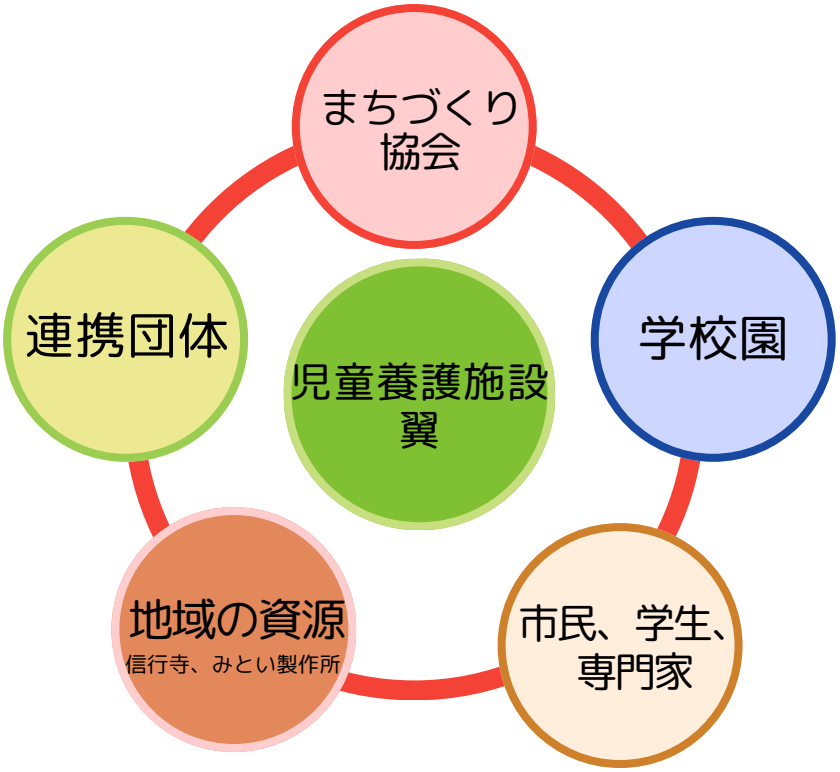
コロナ禍で人間のつながりが大きく変わり、不安も大きくなるなかで、地域の子どもの現在と未来について一緒に考えていければ、という思いで事業を始めました。当初は、人権教育プログラムであるCAPプログラムに着目して、プログラムの導入を通して、「安心して生きる、自信を持って生きる、自由に生きる」地域の関係を目指すことにしました。そして、豊中市立第五中学校区にある児童養護施設「翼」、ともだちこども園、克明小、箕輪小、第五中学校（校区ではないが第十八中学校）にCAP(子どもへの暴力防止プログラム)を提供しました。すでに市民の自発的な取り組みとして翼でのおやつ作りもはじまっていました。その後、CAP事業に加えて「「翼」のエンパワーを考える市民の円卓会議」を始めると、翼のことを気にかける市民や教職員がたくさんおられ、校区を越えて多くの出会いがありました。

ドコモ事業と連動する一連の取り組みは、次のとおりです。本報告書では、それぞれの取り組みの概要を紹介します。今後も子どものことを考えたいと思う人たちと出会い、世代を超えて豊かな関係をつくっていきたいと思います。

本事業関連の取り組み

- CAP(子どもへの暴力防止プログラム)推進事業（2020年9月～）
- 「翼」のエンパワーを考える市民の円卓会議（2022年12月～）
- 「翼」でのおやつづくり（2019年12月～）
- 映像制作ワークショップ（2022年3月、2023年3月）
- おにぎり大会（2021年12月～）
- 信行寺おてら倶楽部（2023年4月～）

ドコモ市民活動団体助成事業
■2020年9月～2021年8月
児童養護施設周辺地域のCAPの実施
■2021年9月～2022年8月
コミュニティベースのCAP推進事業
～「安心・自信・自由」の地域づくり
■2022年9月～2023年8月
児童養護施設「翼」を支える「安心・自信・自由」の地域づくり
～CAP推進事業から
（23年9月から現在：協会自主事業）



CAP推進事業

地域で耕す子どもの人権・エンパワメント

子どもが自分の気持ちや困っていることを「言ってもいいんだ」と思えるようになるためには、まわりの大人が子どもも権利の主体であることを理解し、子どもが自分の権利を発動できるように働きかけをする必要があります。そのために子どものこころと言葉を聴く姿勢や方法を学ぶ必要があります。事業では、子どもたちへCAP(子どもへの暴力防止プログラム）を届けています。

同時におとなもCAPについて学ぶ機会（おとなワークショップ）も作ってきました。CAPプログラムは、子どもが暴力に合うのを防ぐための予防教育であり、クラスにいじめがあることなどに即効性があるとは限りません。しかし、子どもの人権・エンパワメントの土壌を地域で耕していくという素晴らしいプログラムです。（CAPプログラムの提供は、J-CAPTA、NPO法人CAPみしま大阪の協力）

コラム 「顔見知り」から「顔見知り」以上のつながりをめざして

土井聡子

地域の人とつながれることは、翼にとって大きな財産です。CAPの取り組みから始まり、円卓会議含め子どもたちの人権について当たり前に語り合える風土がここにはあります。施設で暮らす子どもたちのことを一緒に考え実践することが、すべての子どもが安心して暮らせる地域づくりに繋がっていきます。顔見知りの関係ができました。ここからは顔見知り以上を目指し、子どもたちが自立に向かう前に、具体的に繋がれる大人が増えるよう取り組んでいきたいと思います。

個々の子どもの「やりたい」に、一緒に付き合うことから顔見知り以上の繋がり、名付けて「一緒に〇〇しよう！作戦」を目指します。（児童養護施設「翼」施設長）

◆実施状況　3年7か月で1,177人の子どもと560人のおとなにCAPプログラムを届けることができました！

20.9.4	おとなワーク	市民、子どもに関わるおとな	15人
20.10.28	おとなワーク	ともだちこども園職員	36人
20.11.18	おとなワーク	巽職員	18人
20.12.9	おとなワーク	第五中学校保護者	24人
20.12.24	おとなワーク	教職員(五中、克明小、箕輪小)	64人
21.1.26～28	こどもワーク	第五中学校２年生	106人
21.4.14	おとなワーク	市民、子どもに関わるおとな	22人
21.6.15	おとなワーク	克明小学校教職員	12人
21.6.29	子どもワーク	克明小学校２年生	63人
21.7.1	子どもワーク	克明小学校４年生	60人
21.7.10	おとなワーク	箕輪小学校保護者	18人
21.8.2～4	子どもワーク	「巽」幼児、小学生	13人
21.8.31	子どもワーク	箕輪小学校２年生	50人
21.9.15	おとなワーク	市民、子どもに関わるおとな	20人
21.12.15	おとなワーク	ともだちこども園職員	30人
21.12.20～22	子どもワーク	ともだちこども園年長クラス	20人
22.1.6	おとなワーク	第五中学校教職員	12人
22.1.27～28	子どもワーク	第五中学校２年生	126人
22.2.16	おとなワーク	第五中学保護者	10人
22.3.28	こどもワーク	こども多世代ふれあい事業の子ども	20人
22.6.11	おとなワーク	箕輪小学校保護者	13人
22.7.27	おとなワーク	箕輪小学校教職員	20人
22.8.8～10	子どもワーク	「巽」幼児、小学生、中学生	18人
22.8.23	おとなワーク	克明小学校教職員	6人
22.8.30	子どもワーク	箕輪小学校２年生	59人
22.9.1	子どもワーク	克明小学校４年生	74人
22.9.28	おとなワーク	克明小学校保護者	5人
22.10.17	おとなワーク	第十八中学校保護者	9人
22.11.17	おとなワーク	巽職員	22人
22.11.18	おとなワーク	第五中学校保護者	6人
22.11.29	おとなワーク	第十八中学校教職員	30人
22.12.26	おとなワーク	第五中校教職員	13人
23.1.16~17	子どもワーク	第十八中学校２年生	80人
23.1.19~20	子どもワーク	第五中学校２年生	136人
23.1.24	おとなワーク	こども園職員	33人
23.2.17	おとなワーク	こども園保護者	23人
23.2.21/22/24	子どもワーク	こども園年長児	23人
23.6.10	おとなワーク	箕輪小学校保護者	10人
23.7.25	おとなワーク	箕輪小学校教職員	12人
23.8.2~4	子どもワーク	「巽」幼児、小学生	46人
23.8.31	子どもワーク	箕輪小学校２年生	54人
23.11.1	おとなワーク	第十八中学校保護者	9人
23.11.17	おとなワーク	こども園職員	7人
23.11.21	おとなワーク	第十八中学校教職員	17人
23.12.1	おとなワーク	こども園保護者	13人
23.12.15/19/20	子どもワーク	こども園年長児	20人
24.1.9	おとなワーク	第五中学校教職員	11人
24.1.12	おとなワーク	第五中学校保護者	20人
24.1.15~16	子どもワーク	第十八中学校２年生	76人
24.1.29~30	子どもワーク	第五中学校２年生	133人
24.2.7	おとなワーク	巽、こどもの学び・居場所事業スタッフ	10人

「翼」のエンパワーを考える市民の円卓会議

CAP推進事業は、協会がハブになって校区の学校園や保護者、教職員にCAPプログラムを届ける取り組みです。CAPプログラムを通して子どもの声を聴けるおとなが増えてほしいと思います。

2022年には、「翼」のことを気にかける市民に向けて円卓会議という「場」を用意することで横の繋がりを作っていくことにしました（表：実施状況）。運営面で工夫しているのは、行けば楽しいこと、学べること、おとなの出会いの場になるようにすることです。「翼」からも毎回、施設長さんや主任さんが参加してくれるので、私たちが社会的養護について深く気づき、学ぶ場になっています。社会的養護は、国や自治体の制度に関わる課題ですが、市民が「知っている子」や「顔見知り」の職員さんたちと意見交換し、できることを探りながら実行していきたいと考えています。

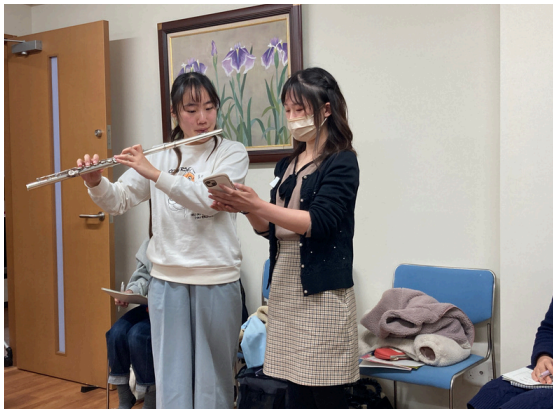
【円卓会議の目的】

・「翼」のエンパワー　私にできることは？

・社会的養護の現状と課題、子どもの人権について学びあう

・子どもが安心して暮らす地域をめざして、「翼」に心を寄せる人がつながる

・「場」を継続して、具体的な課題を明らかにする



コラム

第1回円卓会議に参加して

宇野田陽子

私が参加した一つ目のグループでの討論では、発達障害、ヤングケアラー、子どもの貧困、親の孤立など、日本社会全体に広がっているマクロな状況と、それらが地域の子どもたちの暮らしの中にもみられることなどが話し合われました。二つ目のグループでは、「翼」を取り巻く地域に週末里親がたくさん増えていけばいいなという私の願い、「翼」の土井さんからは入所児たちの状況のお話がありました。（注：第1回円卓会議ではグループでの話し合いを中心に進行しました）

まとめの話し合いの中で出た、不定期で誰にでも開かれたプラットフォームと、「週末里親までいかなくても翼の子どもたちが、ふと立ち寄れたりする人たちが子どもをときどき迎えたりできる仕組みのようなもの」にものすごく共感しました。あの日のミーティング全体を振り返ると、日本社会を覆う子どもにまつわるストレスフルな状況、克明小学校区を中心とした地域、そして翼やたんぽぽに入所している子どもたちの置かれた状況がまんべんなく話題に出たと思いました。

「翼」にいる子たちも一人ひとり、背景もしんどさも強みも多様で、地域で家族と暮らしている子たちも異なるしんどさや喜びを抱えて生きていて、どちらがどうと比較したりできるものではないし、多様だからこそ、多様さを包み込めるようなしつらえのネットワークやプラットフォームが地域にできていくことがほんとうに大切だと痛感しました。このたび出会った人たちのつながりが、有意義なネットワークに育っていくことを願い、ぜひとも具体的な動きがあるときには、参加したいと思います。（言語聴覚士、子どものことがむっちゃ気になるおとなの1人）

森祐昭さん（第４回円卓会議）

◆実施状況

日時	内容	会場	参加人数
22.12.16	第1回「出会いのワークショップ」 グループで自己紹介と「この会でやってみたいこと」についての話し合い 進行：上村有里さん（NPO法人とよなかESDネットワーク）	翼	20人
23.1.18	第2回「CAPが大事にしていること」 話題提供：木村里美さん（J-CAPTAチーフディレクター）	人権平和センター豊中	22人
23.3.1	第3回「『里親』を経験して思うこと」 話題提供：宇野田陽子さん（言語聴覚士・里親経験者）	信行寺	20人
23.5.26	第4回「信行寺おてら倶楽部中間報告」岩田はぎ子さん（信行寺坊守） 「地域から社会的養護を考える」 話題提供：森祐昭さん（克明校区社会福祉協議会会長）	人権平和センター豊中	20人
23.7.28	第5回「子どもの養育について思うこと」 話題提供：古川さおりさん（児童養護施設翼主任）	人権平和センター豊中	20人
23.9.15	第6回「精神障害者支援について」 話題提供：松岡洋二さん（社会福祉法人みとい福祉会理事長）	MITOIコーヒー	20人
23.11.24	第7回「施設や里親を離れる子どもたちに必要なサポートを考える」 話題提供：宇野田陽子さん（言語聴覚士・里親経験者）	克明小学校	21人
24.3.8	第8回「みんなで考えよう　みんなが助かる防災」 宇野田陽子さん（言語聴覚士） 「克明小学校公開授業から」 ゲストスピーカー：中田友貴さん（克明小学校教諭）	人権平和センター豊中	15人

「翼」でのおやつづくり

2019.12～現在

2019年に始まった「翼」でのおやつづくりも、コロナの時期を除いて続いてきました。たいてい日曜日の午後２時ころから４時頃まで。初めの頃、小学生だった子たちも高校生、中学生、高学年になりました。写真にあるように子どもたちのおやつはとても独創的です。

どら焼き

◆実施状況

回	日時	メニュー	こども	おとな
1	19.12.15	さつまいもトリュフ	2	3
2	20.1.13	白玉団子のきなこ、黒蜜がけ	3	3
3	20.2.15	スポンジケーキ	6	3
4	20.7.26	むしぱん、わらびもち	5	4
5	20.8.23	チョコレートケーキ、フルーツポンチ	5	4
6	20.9.27	ずんだだんご、みつまめ	4	3
7	21.11.23	デコレーションケーキ	7	5
8	22.6.19	ごへいもち	6	4
9	22.10.19	オープンサンド、フルーツポンチ	5	5
１０	23.2.19	あやき、ぎょうざの皮のチーズ焼き	6	7
１１	23.5.28	おはぎ	5	4
１２	23.9.17	ずんだだんご、フルーツポンチ	6	3
１３	24.1.8	さつまいも茶巾しぼり、ぜんざい、きなこもち	6	4
１４	24.3.10	パフェ、おかき、あられ	6	4
１５	24.5.12	どら焼き	4	3

コラム

子どもたちからもらう「優しい気持ち」

藤田きみ

おやつ作りも早くも５年になります。

「こんなに簡単で、こんなに美味しいものがあるのか！」と、子どもたちに知ってほしいという思いで、３，４人の方と材料を分担して翼に持っていって作ります。子どもたちはいつも喜んでたくさん食べてくれて、残ることはないですね。

最初は、「甘納豆食べない」と言っていた子も食べてみたら実は美味しく食べれた、なんてこともありました。後片付けも一緒にします。なかには率先して洗い物を全部引き受けてくれる子もいて、うれしいですね。

おやつの後、一緒にトランプや絵本、クイズで遊ぶこともあります。子どもたちと顔を合わせるうちに、私の顔を覚えてくれて、「きみさん」と名前を呼んでくれていろいろとお話をしてくれます。私たちおとなが子どもたちに関わることはとても大事だと思います。子どもたちからは、「やさしい気持ち」というプレゼントをもらって、自分自身も成長することができていると感じています。これからも、元気でいる限りは、簡単で美味しいおやつをいっしょに作りたいと思っています。この間は久しぶりに高校生になった子が来てくれて、その成長ぶりが頼もしかったです。でも、高校を卒業して18歳になると翼から出ないといけない、と思うととても複雑な気持ちです。18歳はまだまだおとなの関わりが要りますね。翼で育つ子たちが、ずっとずっと健やかに暮らしてほしいと心から願っています。（ちくちくの会主宰）

コラム

「そこに居る、存在する」ことの意味
～円卓会議やお寺などに関わって～

長谷川真由

そこに居る、存在することに意味がある。

これは、信行寺で「翼」の子ども達と関わったことで実感した言葉です。月に1回のおてら倶楽部では、地域の様々な世代の方々が集まり、思い思いに手を動かします。子どもと将棋をしたり、工作したり、ボール遊びをしたり。最近の私は、キーボードを持参して、子ども達の好きなJ-POPを教えてもらい、サビのワンフレーズを一緒に覚えて弾く遊びを楽しんでいます。みんなで一緒に食べるおやつの時間も至福の一時です。

共に過ごす自由で安心できる居場所をつくったとよなか人権文化まちづくり協会や関係者の皆様の取り組みは、とても素敵です。

円卓会議も充実していて、毎回勉強になっています。これからも、そこに居る存在になりたいと思っています。（大阪音楽大学教員、童'S主宰）

映像制作ワークショップ

デジタルメディア時代を生きる子どもたちが，メディアとクリティカルに（多面的に吟味しながら）向き合えるようになるきっかけづくりとして、こども多世代ふれあい事業の子どもたちを対象に、子どもたちが楽しみながらメディアについて学び，友だちと話し合い，分析活動や制作活動を行いました。

22.3.29

進行：森本洋介さん（弘前大学准教授）、田島知之さん（京都府立大学非常勤講師）

作品テーマ

「戦争反対」、「いじめはやめて」、「制限はやめて」、「自分が好きなことを好きと言える社会に」など計５本

23.3.29

進行：森本洋介さん（弘前大学准教授）

作品テーマ

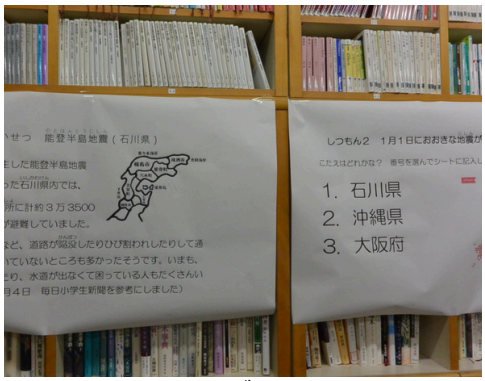
「いろんなありがとう」、「ポイ捨て禁止」、「ゆずりあい」、「街をキレイにしよう」など計4本

プログラム

- 活動①　動画の視聴
- 活動②　動画の分析
- 活動③　自分たちの作品を考える
- 活動④　作品制作
- 活動⑤　上映会と振り返り

おにぎり大会

「とにかくやってみよう！」と有志が人権平和センター２階の調理室を借りて始まったおにぎり大会。いまでは、１００人以上の参加でおとなも子どもも一緒におにぎりを作って楽しむ場です。24年3月のおにぎり大会は、「能登半島地震」で被災する方への応援と連帯の気持ちを込めて「クイズラリー」、克明小学校5年生の防災展示を掲示しました。



クイズラリー

克明小5年生の展示

◆実施状況

	日時	会場	人数
1	21.12.25	人権平和センター豊中	28人
2	22.3.30	人権平和センター豊中	50人
3	22.12.24	人権平和センター豊中	50人
4	23.4.5	人権平和センター豊中	111人
5	23.7.1	人権平和センター豊中	60人
6	23.12.2	人権平和センター豊中	100人
7	24.3.23	人権平和センター豊中	81人

コラム

「とにかくやってみよう！」

寺本美鶴

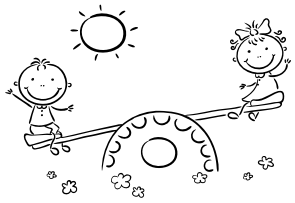
2021年の冬、コロナはまだまだ猛威を振るっており、人々の行動が制限され閉塞感が漂っていた時、地域の子どもや高齢者に元気になってもらいたいと、とよなか人権文化まちづくり協会主催の「ブックトーク」でそんな話が出て、気軽に作れてみんなが大好きな「おにぎり」を作って楽しもうということになりました。お米や具材、費用、手順など話し合いましたが、お米は寄付があり、その他の費用はみんなが出し合って、とにかくやってみようと2021年12月25日「年忘れおにぎり大会」として開催しました。当日の参加者はこども15人、大人6人（ボランティア7人）で、ゆっくりお腹いっぱい食べてもらい満足して帰ってもらいました。その後、「おにぎり大会」は、ドコモ市民活動団体助成事業として位置付けられ、ボランティアの費用負担はなくなりました。回を重ねるごとに地域の子ども、高齢者に広く認知されるようになり１００人を超える回もあり、１５合炊きのガス釜で、お米を炊くのが追いつかないほどです。

おにぎり作りは、お椀を使って好きな具を入れて自分で作って食べるという簡単な流れです。大きなガス釜の炊きたてごはんは、とても美味しくて、特にひとり暮らしの高齢者には好評でした。「おうちにいるお父さんにもっていってあげたい」という子もいて少し気がかりなこともあります。　調理室とは別に食べる場所も提供し、ボランティアによる手品やクイズ、絵本読み、ダンスや歌などお楽しみコーナーも用意してきました。

「翼」の小中学生、職員さんも運営に参加してもらっているのも嬉しいことです。年に３回で回数は少ないですが、地域の子どもたちや高齢者にとっては、誰でも気軽に参加して、出会い、おにぎりをお腹いっぱい食べることのできる貴重なイベントになってきていると思います。（協会評議員）

信行寺おてら倶楽部

子どもたちの月一居場所
「児童養護施設『翼』のエンパワーを考える市民の円卓会議」で出された地域のプラットフォーム作りという課題に対して、信行寺さんから月一回開放するから翼の子たちが遊びに来てくださいという有難いご提案がありました。毎月１回昼下がり、広い本堂や境内で子どもたちはいつもと違う空間で遊んでいます。迎える大人もゆったりと過ごしています。23年4月16日に始まって１４回を数えています（24年6月末）



◆実施状況

これまでのおてら倶楽部			
23.4.16	23.5.14	23.6.25	23.7.16
23.8.20	23.9.10	23.10.22	23.11.5
24.1.28	24.2.25	24.3.31	24.4.21
24.5.19	24.6.23		

「翼」の子どもたちと「おてら倶楽部」

コラム

岩田はぎ子

　豊中市に初めて児童養護施設ができるということで、地域の民生委員として説明会に出席してほしいと市から依頼され、委託先が「水上隣保館」に決まった時から「翼」の子どもたちに私ができることはあるかと考えていました。ただ、その頃は父の介護で忙しかったので何もできずにいました。
　一昨年、父が亡くなり時間に余裕ができた時に、たまたま西村さんから「『翼』のエンパワーを考える市民の円卓会議」にお誘いがありました。会議に参加して皆さんのお話を聞くうち、私には求心力、発信力はありませんが、たった一つ「お寺」というツールがあるではないかと場所の提供を申し出ました。 月一里親をやりたい気持ちはあるが、少しハードルが高いなと思っている人たちが集い、子どもたちと交流する場になるのではないかと思ったからです。
　昨年4月から月に1回、日曜日の午後2時から4時まで、試行錯誤しながらのスタートでした。子どもたちは、協会で用意してくださった文具やクラフト材料、ゲームのキットで遊び、円卓会議のメンバーや声かけで来られる方々がそれぞれ得意とすることを教えたり、教えられたりして楽しんでいます。この集まりで子どもたちと顔見知りになり、学校や道で会ったら手を振ったりタッチしたりできるようになったことが何より嬉しいです。
　おじいちゃんおばあちゃんの家に遊びに来るような気持ちでいてくれるといいなと思っています。この場所は安心できるところだと子どもたちに思ってもらえることが私たちの望みです。あっという間の一年でした。進級して足が遠のく子もいるでしょうが、ここは変わらない場所であることは覚えていてほしいと思っています。（信行寺坊守）

木村里美さんを招いて

まちづくり講座「子どもの人権と暴力防止　子どもの声を聴ける大人を増やすために」（2024.1.30）から

人権文化まちづくり講座（豊中市委託事業）では、校区でCAPの取り組みを進めてきた学校園の参加者を交え、J-CAPTAチーフディレクターの木村里美さんからCAP (CHILD ASSAULT PREVENTION)の基本的な考え方と暴力に合いそうになった時に子どもたちが使える方法、おとなが子どもの気持ちを聴くことの大事さを具体的なエピソードを交えて伺いました。木村さんのお話、地域の学校園からの発言要旨を紹介します。（文責：とよなか人権文化まちづくり協会）

●人権を使って暴力に対抗するCAPプログラム　木村里美

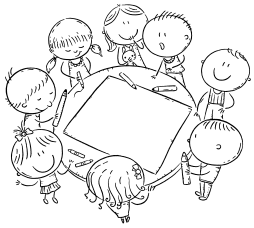
CAPは、子どもへのすべての暴力を扱っており、学校で起きるいじめ・体罰、家庭で起きるDV・虐待、地域で起きる誘拐など、あらゆる暴力から自分を守る人権教育プログラムです。人権を使って暴力に対抗しようということで、「安心・自信・自由」という人権を提案し、その人権がなくなりそうなときにできることを、学校、幼稚園、保育園など子どもたちが学んでいる場で年齢に合わせた形で届けています（３歳から18歳まで対象）。あわせて先生、保護者へのプログラムも届けるのがCAPの取り組みの特徴です。学校・家庭・地域が一体となって、子どもを真ん中にして暴力のない地域を作るという、コミュニティベースプログラムです。

CAPは、禁止のメッセージではなくて、していいことを教えます。その基本は、「NO, GO, TELL」です。暴力は圧倒的な力の落差を背景に起きているので、力のない側に置かれているときに暴力の被害に遭いやすい。ですので、「いやだと言ってもいい、でも言えなくてもあなたは悪くないよ」「逃げてもいい、でも逃げられなくてもあなたは悪くない」、しかし「相談する」ことは最後の砦です。あきらめないで信頼できる人に出会えるまで話続けてほしいのです。

子どもに向けたワークショップでは、終わった後に必ず「トークタイム」といって、子どもがCAPスタッフに話をする時間があります（希望する子だけ）。そのなかでは、約１％ですが、虐待ケース、性被害のケースなど、いま進行していて誰にも言えていないようなケースが入っています。CAPスペシャリストは、子どもの側に100％立ちながら、学校につなぐ方法をトレーニングされています。

おとなは、子どもが話す時はちゃんと聴いてほしいと思います。子どもたちは、たくさんサインを出しています。否定的な気持ちを子どもたちがため込んでいったら、それは行動化あるいは身体化します。相手に暴力をふるったり乱暴な言葉を使ったり、あるいはしょんぼりしたり無口になったりします。そこで、私たちはそれをサインだと思って受け止めて、その気持ちにぜひ手当てをしたいと思います。聴くことはシンプルですがとても効果的な手当につながります。おとなワークショップでは、子どもの話の聴き方もお伝えしています。（J-CAPTAチーフディレクター）

学校園の報告



約５００人の中学生が受講　元古佑樹

第五中学校では、2020年度に初めてCAPを実施して、今年で４年目、延べ500人くらいの生徒がCAPを受けました。４年間CAPを受ける中で、アンケートをみると、とても前向きに数値が変容しているのがわかります。例えば「暴力に合いそうになったらどうしますか」に、「NO、GO、ＴＥＬＬ」の選択肢を使う子どもが増え、逆に「何もしない」とか「わからない」と回答する子どもの数値が減っています。

最初の年にCAPを受けた子どもで、「安心、自信、自由」のポーズを卒業まで、何かあるたびにそれをやって、すごく心に響いたのだと思っています。（豊中市立第五中学校人権教育担当者）

初めて会ったおとなに話す経験　田中のぞみ

ともだちこども園では、４年前に職員ワークをして、２年目の時に、５歳児クラスの子どもたちがCAPを受けて３年目、４年目と５歳児クラスが続けて受けています。それに合わせて、保護者に向けてのワークも、クラス懇談と合わせてしています。

子どもたちは最初すごくふざけたりするのですが、だんだん話に引き込まれて行くんです。ワークが終わったら、ほとんどの子たちがCAPの方に話を聴いてもらいたいといってでなかなか外に出てきません。こども園では、小学校に行く前に、その日初めて会ったCAPの人に話をできるということは、すごく大きな経験だなと感じています。

小学校入学前に保護者も不安に思っていたのですが、CAPの話を聴いたことで、子どもたちへの声掛け、接し方が分かったと聞いています。（豊中市立ともだちこども園副園長）

生活の中で考えるきっかけ　古川さおり

翼も、毎年、長期休みに子どもたちに実施し、職員研修で職員向けにも伝えていただいています。施設が立ち上がって、この１月で６年目になり、入所している子どもたちのほぼ全員が、CAPに触れたことがあるお子さんです。

施設ではプログラムに参加しない子どもたちも、中学校で実施されているということもあって、なんとなくこれをみんな知っていて、「安心、自信、自由」っていう言葉が共通言語になっているという所があるのかなと思います。施設にくる子たちは、何らかの権利を奪われて施設に入所が前提にあります。入所する前には、「権利ノート」を使って一人ずつお子さんに権利について説明をしています。ただ、CAPのプログラムは劇の中でイメージしやすいことがあって、自分の身近に起こる権利を体感しながら、生活の中に自分の権利がどんなところであるのかを考えるきっかけになっていると思います。プログラムを受けた後、必ずと言っていいほど、自分にはこんな権利があるっていうことを子どもが主張してくれます。そういう時に、「でももしかしたら言葉の暴力で相手の権利を奪っていたんじゃないか」って子どもが振り返って話をする場面もあり、私たち職員もハッとさせられ、子どもに気づかせてもらうことが多々あります。職員も、身振り手振りも含めて権利を伝えやすくなったという意見もあります。CAPのポスターのこれのどれかなと子どもと一緒に考えるきっかけができて、施設の中でかなり浸透しているなと思います。このようにプログラムを繰り返し受けることの意味を、私自身も感じています。（児童養護施設「翼」主任）

子どもの権利をベースに　福間香代子

私は五中でCAPを導入する最初の年に関わっていました。実施してみてCAPがとてもいいものだと感じたので、十八中に転勤しても取り入れたいと提案しました。

学校としてのねらいは、性暴力を含む暴力やいじめの問題に子どもたちが直面した時に具体的な解決方法を知るということと、さらに「子どもの権利」について学び、自分の本来持つ力を知り、自分を大切にすることができるということでした。

実施して改めて感じたのは、ベースに「子どもの権利」についてのアプローチがあるということです。これがCAPの重要なところだと感じています。誰もが自分に人権があるということを丁寧に話していただいたことは、ほかの場でもすごく役に立つ大事なことだったと思っています。

もう一つ、今も印象に残っているのが、最初の保護者のワークのときに、一人の方が感想で「もっと早くCAPに出会いたかった」と書いておられたことです。誰もが「安心・自信・自由」という自分の中にある人権について確認できる機会を得られたらいいなと、その時も感じましたし、今も感じているところです。（豊中市立第十八中学校教諭）

5人がCAPスペシャリストになりました

今年高槻市でCAPスペシャリスト養成講座がJ-CAPTA主催で、24年4月27-29日（基礎編）、5月18-19日（実践編）と５日間にわたって開催されました。今回、本事業に関わる５人が受講し、CAPスペシャリストの資格を得ました。合計7人（すでにスペシャリストの資格を持つ人、他市からの参加者）で、CAPとよなかssf(注SSFはsafe strong free 安心・自信・自由)を結成しました。今後は、CAPプログラムの担い手として活動できるよう学びを深めていきます。

報告　子どもが沈黙を破るためにおとなができること

山田さほ

５月に、CAPスペシャリスト養成講座の基礎編、実践編を修了しました。

久しぶりに終日講義を受けました（５日間）。寸劇を実践したり、多様な参加者のみなさんとディスカッションしたり楽しい時間を過ごしました。

CAPが生まれたアメリカ、そしてCAPが少しずつ広がっている日本での子ども虐待対応の歴史、CAPの思想や理論。人権、権利について基礎から学ぶ養成講座は奥深いものがありました。

アメリカでも日本でも昔から子どもの沈黙が子どもへの暴力の最大の原因であり、今も変わらないということ。特に日本では今なおこどもの沈黙問題は深刻だ。子どもが勇気を出して大人に打ち明けたとしても、加害者に打ち明けたことを知られることを恐れる子どもが大半で、「言わないで」と言われ対応に戸惑う大人も少なくはないはずだ。

CAPのトークタイムではその対処法、具体的には打ち明けてくれた子どもへの声かけ、そして子どもにしてはいけないこと、例えばできない約束はしないなど、能動的傾聴、反復的傾聴を含む子どもに安心してもらうためのスキルも然り、あらゆるシチュエーションを想定し細かく考え抜かれている。あくまでこどもに寄り添うプログラム、とことん子どもの味方になるプログラムである。

あんしん、じしん、じゆうの権利を軸に展開されていく

寸劇では、性的ハラスメントをしてしまう「いとこのお兄さん」役をした。スペシャリストとして気をつけなければならないことは、学校の児童生徒にはあらゆる子がいるので（トラウマがあるこどももいる）怖がらせるほどリアルになってはいけないし、かといって現実離れしすぎてしまうのもだめで、スピード感をもって淡々と進めるのがポイント。そして痴漢やいじめ加害者とは違って優しく近寄るという設定が複雑で匙加減が難しかった。犯人ならどうするか、被害者の信頼を得つつ搾取する気持ちを想像し、ある意味なりきって挑んだ。なるほど、性被害を繰り返す若い保育士が子どもの扱いがうまく人気者だという傾向にも納得したりした。

子どもへの虐待や性暴力の最大の原因は子どもの沈黙であり、その子どもの沈黙を破ることが子どもへの暴力防止のために効果があるということ。

虐待被害者や性被害者は0歳から18歳までいる。性暴力を含む暴力防止のプログラムに「早すぎる」は、ない。豊中市でも虐待、性被害、いじめ、子どもへのあらゆる暴力が起こっていて、ほとんどはこの子どもの沈黙によって被害が放置され埋もれているので、CAPのようなプログラムが早急に必要。全域に広がって欲しい。

今回高槻市で実施されたJ-CAPTAによるスペシャリスト養成講座から誕生したスペシャリストたちが集まって「CAPとよなかssf」が誕生した。期待したいしメンバーの一員として何ができるか、考えていきたい。(豊中市議会議員)

「こんなにも奥が深かったのか！」

森山輝子

CAP推進事業（2020年9月から３年半で、J-CAPTA、CAPみしま・大阪の協力をえて、おとな・こどもあわせて1737人にCAPプログラムを届けました）を通して、なんとなく知っていた気でいたＣＡＰでした。しかし、今回の養成講座で「こんなにも奥が深かったのか！」という新しい気づきや学びがありました。子育てにも通じるものをたくさん学びましたが、まだまだそこは活かしきれていない自分もいます（自分に余裕がないときは子どもの気持ちに共感し、気持ちを受け止めることは非常に難しいです）。

5日間、さまざまなフィールドで活躍される受講生、しっかり向きってくださったJ-CAPTAのトレーナーのみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。トレーナーの方々の丁寧かつ傾聴スキルのすごさ、経験談が持つ説得力によって、CAPがいかに子どもにとって重要なプログラムであるかを改めて気づかされました。そして、私は豊中で養成講座をやりたいなともくろんでいます。（協会職員）

今回、豊中からCAPスペシャリストになったのは、大越圭介（協会職員）、谷峻介（協会職員）、土井聡子（「翼」施設長）、森山輝子（協会職員）、山田さほ（豊中市議会議員）です。
CAPスペシャリスト資格を持っていてグループに所属されていない方は、ぜひご連絡ください。

おわりに

CAP推進事業、「翼」のエンパワーを考える市民の円卓会議、おやつ作り、おにぎり大会、信行寺おてら倶楽部、映像制作ワークショップはすべて、ドコモ市民活動団体助成事業の賜物です。バラバラに見えるこれらは、「安心・自信・自由」の地域づくりによる子どものエンパワメントを願って企図した取り組みです。この3年半、提案が徐々に共感を呼び、予想を越えてたくさんの仲間ができました。協会が根を張る地域の力、声かけあう人のつながり、お金（助成金）があればこそと思います。本報告書も声かけあってできました。お忙しい中、協力していただいた皆様に心から御礼申し上げます。（協会理事・西村寿子）

相談窓口

おとなもしんどい時は相談しましょう

人権相談	月・水・金　9時～17時 06-4865-3655	一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
外国人のための多言語での相談	月・火・木・金11時～16時　土13時～16時 06-6843-4343	とよなか国際交流センター
女性の生き方総合相談	第1～第4月・木13時～17時 第1～4火・金10時～12時 06-6844-9820	すてっぷ （とよなか男女共同参画推進センター）
とよなかっ子ダイヤル （18歳未満の子ども専用フリーダイヤル）	24時間365日 0120-307-874	豊中市こども支援課
子ども家庭相談室	月・火・木　10時～20時 06-4394-8754（おとな専用）	子ども情報研究センター

とよなか人権文化まちづくり協会とは

豊中市における部落問題の解決のための施策をはじめ、 豊中市と連携・協力して差別のないコミュニティづくり、すべての人の人権が尊重される人権文化のまちづくりの実現を目的にして学習・啓発、相談、こどもの居場所事業、高齢者事業、地域交流事業などを実施しています。

人権情報啓発事業

※豊中市委託事業

- 人権文化まちづくり講座
- 情報紙の発行
- 資料室の管理運営
- フィールドワークの受け入れ
- 講師派遣
- ブックトーク

人権相談支援事業

※豊中市委託事業

- 人権相談
- 総合生活相談
- 地域交流事業（高齢者ふれあい事業、ほっとス、トークマインド）

人権教育交流事業

※豊中市委託事業

- こどもの学び・居場所事業（豊中）
- 学習支援
- こども多世代ふれあい事業（蛍池）

児童養護施設「翼」を支える「安心・自信・自由」の地域づくり～CAP推進事業から～
ドコモ市民活動団体助成事業報告書（2020.9～2024.3）
編集・発行：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
2024年 6月28日　初版発行
豊中市岡町北3-13-7　人権平和センター豊中内
電話：06-6841-5300　FAX：06-6841-6655
mail:bwz37306@nifty.com